

サンモールスタジオ新春特別公演

Sun-mall studio プロジェクト × The Stone Age フライアント

「30才になった少年A」

作・演出 鮎田直也

2014年1月9日(木)～14日(火) 全9ステージ

新宿・サンモールスタジオ

【登場人物】

上田(30) 〈本名・松本【元少年A】さつき町商店街の新聞販売店 住み込み従業員〉
…アフリカン寺越

平野(45) 〈さつき町商店街の新聞販売店 店長〉…宇鉄菊三

松阪(28) 〈さつき町商店街の新聞販売店 住み込み従業員〉…藤代知己

加藤(24) 〈さつき町商店街の新聞販売店 女性事務アルバイト〉…徳永梓

藤沢(27) 〈さつき町商店街のお好み焼き店 女性店員・通信制高校生〉…白石麻樹

越(45) 〈さつき町商店街の金物店 店主〉…富沢たかし

近松(44) 〈宗教団体「方舟(はこぶね)の教え」の女性勧誘員〉…永澤菜教

千葉(42) 〈旧姓・岡谷 かつて上田の担任だった女性教師〉…吉水恭子

円山(26) 〈看護学生・松阪の彼女〉…海老瀬はな

堤(48) 〈通信制高校の教師・上田と藤沢の担任〉…高橋いさを

〈日替わりゲスト〉

※毎ステージ一人だけの登場

演者の年令・性別がバラバラなのでステージごとにセリフは変わります

この台本では坂本役バージョンになっています

坂本(33) 〈さつき町商店街の新聞販売店の新人アルバイト〉…仁瓶あすか

並木(25) 〈さつき町商店街の新聞販売店の新人アルバイト〉…松野高志

上原(17) 〈さつき町商店街の新聞販売店の新人アルバイト〉…真彩

三森(50) 〈さつき町商店街の新聞販売店の新人アルバイト〉…蒲公仁

舞台はどこかにある架空の町、さつき町商店街にある新聞販売店。
舞台美術は変則的な作りになっていて、下手が1階で新聞販売店の作業場と事務室。
手前に作業台、奥にはパソコンと電話が置いてある机と椅子があり、1階奥には和式トイレがある。店の前(下手端)には缶コーヒートの自動販売機と町の掲示板(商店街の歳末大売り出しのチラシや古くて破れかかっている指名手配犯の写真などが貼っている)がある。
上手が2階の作りになっていて住み込み従業員の部屋。
舞台上には1室だけが見えていて、この部屋の住人がマンガ家を夢見ている元・少年Aの上田。
部屋の背面は本棚で占められていて、中身は全てマンガ。本棚の上には古いラジカセ。
上手端には正座してちよつどいい高さになる机と座布団だけがある。
隣の部屋(奥側の見えない部屋)には、同じく従業員の松坂という男が住んでいる。
音楽入ってー

1場 12月21日土曜日 夜 19時頃

2階の上田の部屋だけ明転していく。
和服姿の女性・近松を前にスキンヘッドでジャージ姿の上田が小さな冊子を手にしばらく下を向いている。

近松 (関西弁)何、どうしたん？

上田 …(顔を上げて何かを言おうとしている)

近松 続けて読んでくれたらええんよ

上田、また下を向く。

近松 …(自分の冊子に目を落とし)あーこれは度外視って読むんや。神を度外視して真の希望はない…度外視してたらあかんっていうことやな。わかる？ 度外視

上田 (力なく声に出す)どがいし

近松 無視することや。神を無視なんかしてたら、ほんまの希望なんかないってことやな…はい、ほんだらその次読んで

上田 (気分乗らずに)方舟(はこぶね)の神は真の希望の

近松 ちよつと待って、何でそんなに声小さいん？

上田 …(顔を上げて、何かを言おうとするが)

近松 上田くん、ええか。声の大きさとはいっしょなんや…方舟の神は真の希望の…あつ、そうか次の漢字がわからんかったんやな。これは源って読むんや。みなもと。あつ、ドラえもんに出てくる静香ちゃんの名字やな

上田 はい、それは知ってます

近松 何や、知ってるんか。ほんだら声出して読みーや。もしわからん漢字出てきたら、こっつ顔を上げて私を見てくれたらええから。(自分で実演してみる)こっつ読んで、わからん漢字出たら、こっつハッと顔上げてくれたら、すぐその場で言ったるから。よしっ、それでいいこっ！

上田、また下を向いたまま無言になる。

近松 わかった！ よしっ、私が一回ゆっくり読むからわからん漢字が出てきたらふりがな打ち！ほんだら読むで…方舟の神は真の希望の源であり、こっつ自分を信頼する人たちの希望をすべて成就させることができるのです。方舟の神は過分のこっつ親切により人間に慰めと良い希望を与えて

上田 (さっき読んで)あの近松さん!

近松 ああーごめん、読むん早かったな。私、今サラサラサラサラって読んだわな… (笑いな
がら) ゆっくり読むって言うてたのにな

上田 (言いにくそうに)あのーそろそろ銭湯に行く時間なんです

近松 えっ…(腕時計を見て)もうちょっと待ってーやー。このページまで今日やろうやー

上田 すいません。ホントに時間が

近松 そんなん、今行ったら一番混んでる時間ちゃうのん?

上田 銭湯行つてから通信教育の宿題もあるので

近松 あるかー宿題とかあるかー

上田 ええ、レポート提出が

近松、残念そうに上田の顔を見ている。上田、申し訳なきそうに下を向いている。

そこに下から新聞販売店の店長・平野と女性の従業員・加藤が外回りから戻ってくる。

加藤、下手端にあるドアを開けようとすが鍵がかかっている。

加藤 (イライラしながら)店長、また鍵かかっていますよ

平野 :

平野、不機嫌な表情でポケットから取り出し、店のドアの鍵を開ける。

近松 しゃあないかあー。よしっほんだら今日勉強した一番大事なこの言葉、いっしょに声出して

読んで終わるか

上田 はい

近松 ほんだら、いくで

上田・近松 方舟の神を待ち望め。勇気を出し、あなたの心を強くせよ! そうだ、方舟の神を待

ち望め!

平野と加藤、店に入った瞬間、2階から漏れてくる近松の声に気付き上を見上げる。

近松、上田の声の小ささに気付き読むのを止める。

平野、1階の電気を点けて、奥にあるパソコンが置いている机の前に座る。

続いて、加藤が疲れた表情で作業台近くのベンチに座る。

平野、座った加藤をチラッと見るが何も言わずパソコンに向かって作業を始める。

近松 もっと声出していこうよ! はい、もう一回!

上田・近松 方舟の神を待ち望め! 勇気を出し、あなたの心を強くせよ。そうだ、方舟の神を待

ち望め!

近松 あかん、あかん声小さいわあー。そんなん神を待ち望んでないわあー

上田 近松さん、あんまり大きな声出すと

近松 (本棚がある壁の向こうを見て) 隣の人、今いてへんやろ??

上田 隣はいないですけど、近所に

近松 ああ〜近所かあ〜そうか近所かあ〜。やっぱりあれやな、方舟会館で思いっ切り声出して読

まなあかんな

上田 方舟会館?

近松 集会場のことや。ものすごく大きいところやで〜あそこやったらなんぼ大きな声出しても大丈夫

なんやで〜

そう言いながら近松、帰り支度を始める。

近松 ここからやと、1時間かからんぐらいかな。希望が満ち溢れてるで、あそこは。そのうち、いっしょに行こな

加藤、ポットとベンチに座っていたが、立ち上がり平野に向かって。

加藤 ちょっとトイレに行ってきます

平野 …

加藤、そう言うと店から外(下手)に出ていく。

近松 ほんだら、まあちょっと中途半端やけど今日は終わるか

上田 (大きな声で)はい!

近松 何や、それ。声出るやん! 出るやん、大きな声

上田 (近松の顔をまっすぐに見て)近松さん

近松 …何よ?

上田 前から聞きたかったことなんですけど、何で近松さんは神を信じることになったんですか?

近松 えっ

上田 何かキツカケとかってあったんですか?

近松 …ああキツカケか、キツカケなあ…(口調が変わって)あんな上田くん、あんたの(本棚の

上を指して)あのラジカセが壊れたら、どうするっ?

上田 …

近松 新しいの買い替えるのとかはナシで

上田 …じゃあ電気屋で直してもらいます

近松 まあ普通はそうやな

上田 はい

近松 でも商店街の電気屋さん、ほんまにちゃんと元通りに直してくれるかわからんわな

上田 …ですかね

近松 そんな時にこの近所にそのラジカセを作った人がおると知ったらどうするっ?

上田 …(どういふこと?)

近松 その人をお願いするわな

上田 …

近松 ラジカセを作った人やってわかったら、その人に直してもらうんがイチバンやろ

上田 …(わかるようなわからないような感じ)

近松 わかるわな

近松、一人で納得して笑いながら階段を下りていく。

続いて上田も階段を下りていく。

平野、階段の音を聞いた直後、なぜか寝たフリをする。

近松 あれ、下電気ついてるで

上田 えっ

近松 ああ店長さん、寝てるわ…(平野に向かって小声で)お邪魔しました

平野 …(寝たフリしている)

近松 上田くん、ほんだらまた明日な

上田 えっ…(力なく)明日

近松 何かな、あんたと勉強していると私も希望がドンドン大きくなっていくんよ。ありがとうな

近松、帰りがけるが振り返って。

近松 ほんだら、また明日な

近松、下手から帰っていく。

平野 お前、イチイチ鍵閉めなくてもいいから

上田 あっすいません。もう帰ったのかと思いましたが

平野 誰が？

上田 …

平野 帰るなんて言ってたか？ 俺

上田 言ってません

平野 あいさつ回りに行くって言わなかったか？

上田 はい、そうでした。あいさつ回りでした

平野 …(何か上田に言おうとするが、パソコンを続ける)

上田 …(何か平野に言おうとするが、適当な言葉が見つからない)

上田、軽く頭を下げて急いで階段を上がる。

そして部屋に入ると、ドアの内鍵をかけて本棚の裏側に隠しているマンガの原稿を取り出し、一枚一枚めくった後、まだ何も書かれていない原稿を机に置きペンを手にマンガを描き始める。

加藤、外から戻ってくる。平野、構わずパソコンで作業を続けている。

加藤、平野をチラッと見て、ため息をつきながら上着を脱いで作業台でチラシを折り始める。平野、立ち上がって1階奥のトイレに行く。

そこに下手から、商店街のお好み焼き店で働いている女性店員・藤沢がジャージ姿でポロポロのマンガ本3冊を手に店にやってきて、中に入ってくる。そして、そのマンガ本を作業台にドーンと置く。

加藤 …(乱暴な感じがして身構える)

藤沢 …(興味津々で)新人さん？

加藤 はい、そうですけど…(緊張して)何ですか？

藤沢 いつ入ったの？

加藤 …最近です

藤沢 …ふーん

話が続かず、加藤はチラシ折りの作業を再開する

藤沢 店長いる？

和式トイレの水が流れる音。

平野、トイレから戻ってくる。

平野 (藤沢を見て笑顔で) 何? 来てたの?

藤沢 (持ってきたマンガ本を手にとって) また持ってきたよ、ボロボロになったやつ

平野 悪いね

藤沢 …(半笑いで) あっ、ちょっと焼きそばついてるけど

藤沢、笑いながらマンガについていた焼きそばを乱暴に取って下に捨てる。

加藤、そのしぐさを不愉快そうに見ている。

平野 ああ、そんなの全然いいよ。ありがとう

藤沢 店長さんさあー

平野 何?

藤沢 あのだ、来週から福引あるでしょ? 歳末大売り出しの

平野 あっ、来週からだっけ?

藤沢 でね、この店からも(2階を見上げて) 一人出してもらえないかなと思って…(手で回すしぐさをしながら) ガラガラ回して出玉のチェックして欲しいんだけど

平野 うち? ああ、うちはダメだよ

藤沢 何で?

平野 何でって、年末まで忙しいから

藤沢 そんなのどこの店だっけってっしょでしょ

平野 いやまあそうなんだけどさ

加藤、腰を伸ばしたりしながらチラチラと腕時計を見ている。

平野 (加藤に気付いて) …おい、もういいぞ

加藤 えっ

平野 もういいよ。明日で

加藤 …じゃあ明日にします

平野 ああ

加藤、急いで上着を着る。

加藤 (振り返りもせずに) お先に失礼します

加藤、店から出ると早歩きで帰っていく。

藤沢 何、あの子

平野 ああ入ったばかりの子だよ

藤沢 恐ろしいぐらいに可愛げないんだけど

平野 …

藤沢 まあそんなことどうだっていいんだけど…それより福引の話

平野 ああ

藤沢 協力して欲しいんだよねーガラガラ回す仕事

平野 …うん、じゃああいつらに聞いとくよ

藤沢、2階を見上げる。

平野 何？

藤沢 …

平野 あいつなら、今勉強してるから

藤沢 いや…うん、また来るよ

藤沢、帰っていく。

平野、藤沢が持ってきたポロポロのマンガ本3冊を手に階段を上がっていく。

上田、階段の音に気付き、あわてて原稿を隠し通信教育の教材を取り出す。

ノックの音が聞こえて、上田、内鍵をはずしてドアを開ける。

平野 (マンガ本3冊を差し出して) ほらっ

上田 あっ、来てたんですか？ 彼女

平野 ああ、たまにはお前もお好み焼き食いに行つてやれよ

上田 ……ええ

平野 大丈夫だよ。ここの商店街の連中はお前のことなんか誰も知らないよ。普通にしたりやいなだよ。普通に

上田 普通に

平野 そうだよ。それよりも…(上田の頭を軽く叩いて) また明日も来るのかよ

上田 ……すいません。何か断れなくて

平野 神なんか信じてませんって、言ったら一発で終わることだろ

上田 はい

平野 信じてないんだろ？

上田 ええ

平野 お前、そういうの一番よくないから。思わせぶりってやつだから

上田 そうですよ

平野 何？もしかしてお前断ったら、あの人がわいそうだなあーって思ってるの？

上田 ……

平野 バカかお前、そのうちわけのわかんない金巻き上げられるぞ

上田 お金はかからないって

平野 そう言うんだよ、最初は…(机に近付き) お前はあんな人と付き合うより、今やらなきゃいけないことあるんだろ

そう言うって平野、机の上にある通信教育の教科書をパラパラめくる。

平野 断れないんだつたら、もう無視しろよ

上田 でも悪い人じゃないんですけど

平野 そんなこと関係ねえよ。神とかに頼ってる時点でキチガイなんだから

上田 ……

平野 あんなのは幽霊が見えるって言う奴らといっしょだから

上田 幽霊？

平野 そうだよ、幽霊も神もこの世にはいないんだからさ

上田 ……

平野 リラックスしようとして、ゴロンと横になる。

平野 (起き上がって) おい、明日からまたバイト募集のチラシ折り込むぞ

上田 バイト? 加藤さんは?

平野 あいつダメだわ。もう辞めてくれないかな

上田 でも、店長、彼女はよく働いてくれるって

平野 まあそうなんだけど、イチイチ鼻につくんだよ、あいつの態度が

上田 鼻につく

平野 何か態度がムカつくんだよ…あいつ、下のトイレ使ってないの知ってるか?

上田 何ですか?

平野 知らねえーよ

上田 …

平野 それであいつ、わざわざゴロンゴロンまで行ってるんだよ

上田 コンゴニ

平野 そりゃうちのトイレは古いけどさ、毎日ちゃんと掃除してんのによー

上田 はい

平野 あいつ、俺らのこと汚いって思ってたんだよ

上田 …

平野 じゃあキレイな会社で働けよって話だよなあー

上田 …はい

平野 あいつ、明日ぶん殴ってやろうかな

上田 店長

平野 …(力なく笑う)

そう言っつて平野、またゴロンと横になる。

平野 あのさ、お前にちよっと頼みたいことがあるんだけど

上田 何ですか?

平野 俺の配達エリア、明日から年末まで頼めないかな?

上田 …

平野 夕刊だけでいいから。うん朝刊はいいから…俺、夕方から新規の客見つけたいから。そうなるよ、ちよっと手が回らないんだよ

上田 …

平野 うん、まあ橋渡らなきゃダメなんだけどさ、それはわかってるんだけど

上田 …(下を向いて何かひっかかっている様子)

平野 うん、まあ橋渡るの気持ち悪いもんな。うんダメならいいよ。何とかするから

上田 わかりました。年末までなら朝刊も配ります

平野 ホントか

上田 はい、店長、その代わりに言ったらあれなんですけど…来週の火曜日の夕刊だけ休みもらえないですか?

平野 火曜って24日ってこと? えっお前クリスマススイブに何かあるの?

上田 いえ僕にはイブとかは関係ないんですけど

平野 何? …ああー通信教育の宿題か何かあるのか?

上田 …ええ

平野 いいよ、それぐらい。じゃあその日だけ俺が配るよ

上田 ありがとうございます

そこに下手から住み込み従業員の松坂が走ってきて、店に入り勢い良く階段を上がっていく。そして、上田の部屋のドアを勢いよく開ける。

松坂 (息が荒い) 上田さん！

上田 だから、松坂くん！

松坂 (まだ息が荒い) すいません、ノックするの忘れましたね

松坂、息を切らしながらボタンと倒れこむ。

松阪 はあーダッシュで帰ってきましたから

上田と平野、顔を見合わす。

平野 何したんだよ、お前

松坂 えっ

平野 また女の子に抱きついたりしたんじゃないだろうな

松坂 (起き上がって真顔で) 店長！ そういうことぶざけて言わないでもらえますか

平野 悪い悪い

松阪 ダッシュで帰ってきたのは、二人に話したいことがあったんですよ

上田 何？

松坂 ……上田さん、夕方、俺おばあちゃんのこと話してたでしょ？

上田 おばあちゃん？

松坂 ほら、今日の朝刊がそのままポストにあったから心配だった

上田 ああ、うん言ってたね

松坂 でね、さっき火の用心の帰り、やっぱり気になるから、おばあちゃんに寄ったんですよ

上田 ……うん

松坂 そしたら、外から呼んでも返事しないから

上田 うん

松阪 で、玄関の鍵かかってなかったから、中に入ったんです

上田 どうだったの？

松阪 そしたら…倒れてたんです

上田 えっ

松阪 で、俺速攻で救急車呼んだんです

平野 で、どうなったんだよ？

松坂 いやーもうー救急車が来るまでの俺の心境はと言つとですね

平野 おい、どうなったんだよ！

松阪 いやまあそれでですね

平野 おばあちゃんはどうなったんだよ？

松阪 どうなったと思いますか？

平野 いや、そういうのはいいから

松坂 どっちか言ってくださいよ

平野 助かったのか

松阪 ……はい、助かりました！

平野 バカ、先にそれを言えば
松坂 さつき、さつき町病院で意識が回復したんです。あとちょっと遅れてたら、ダメだったって。孤独死だったって

平野 おい、松坂

藤沢 …はい、やりました。店長、俺人助けしました

平野 やったじゃねえか

松坂 店長、俺考えたんですけど、ひとつ人助けしたら、前科一犯みたいに逆にプラスとしてカウントされないですかね。前科一犯でも、ひとつ人助けしたら、プライオになるみたいな
平野 それとこれとは話別だろ

平野、松坂の下腹部の急所を強くつかむ。

松坂 痛っ！

平野 前科は前科のままなんだよ。なかったことにできるわけなんかないだろ

松坂 ちょっと店長、ガチ掴みやめて下さいよー

平野 (笑いながら) お前はもう金玉ひとつでもいいだろ

松坂 よかないですよ。そんなことになったら

平野 いやお前はひとつぐらいでちょうどいいんだよ

松坂 よかないですよ！

上田 松坂くん

松阪 はい

上田 本当に人助けしまくれれば、前科なくなったらいいのにね
松坂 ですよねー

平野、上田に近付く。

平野 (ニヤけて) おい、この前ボーナス渡しただろ？

上田 あっはい

平野 久しぶりに明日行くか？

上田 … (意味がわからない)

平野、ニヤけながら上田の身体を触りそれが風俗であることを伝える。

平野 行くかって、言っただよ？

上田 (意味がわかり) いえ、明日はちょっと

平野 何だよ、お前溜まってないのかよ

上田、一瞬松坂と目が合い恥ずかしくなる。

上田 すいません、来週の火曜までは

平野 ああ通信の勉強か？

上田 …はい

松坂 店長、俺は明日空いてますよ。俺もそろそろ風俗デビューしてもいいかなと

平野 お前はダメだろ！ 彼女できたんだから
松坂 ですよねー

平野 松坂に近付き頭を強く叩く。

平野 当たり前だろ

松坂 痛っ！

平野 松坂は明日俺が酒おごってやるよ

松坂 マジですか

平野 ああ人助けのご褒美だ

松坂 ナチュラルに嬉しいです

平野 よしっそれじゃあまた明日…あっお前ら、明日の集合はちょっといつもより早いけど、2時
でいいかな？

松坂 えっ、2時！ まだ外真っ暗じゃないですか

平野 うん…ちよっとやって欲しいことがあるんだよ

松坂 何の仕事ですか？

平野 新しくバイト募集のチラシ作るから、その折り込み手伝ってよ

松坂 バイト？ 加藤さんが入ったじゃないですか

平野 あいつ明日にでも辞めそうだから

松坂 ……そうなんですか

平野 なあーお前らが頼りなんだから。頼むよ

と言って平野、階段を下りていきパソコンのある席に座り作業に戻る。

松坂 何かあったんですか？ 加藤さん

上田 いや知らない

松坂 店長、人使い荒いからなあー。あれさえなかったらいい人なんですけどねー

上田 そうだね

松坂 ……じゃあ風呂に行つてこよーかなあー

上田 うん

松坂 上田さん

上田 何？

松坂 いっしょに行きましようよ、銭湯

上田 いや、それは…うん、いいから

松坂 あんなコインシャワーじゃ一日の疲れが取れないでしょ

上田 いいんだよ、俺は。お金もかからないし

松坂 あのー(優しく)俺そついうのホントに気にならないですから

上田 そついうの？

松坂 そのー(言いくいので勢い良く)火傷の跡とか刺青とかってことですよ

上田 ……うん、そついうのじゃなくて、コインシャワーは5分100円とかだから

そこに松坂のケータイからメール音。

上田 彼女さんからメール来たよ

松坂 えっ、このオリジナルな着信音バシってたんですか？

上田 隣から夜になるとその音小さく聞こえてくるから、きくと彼女さんだろうなって…違った？

松坂 当たりです…(彼女から届いたメールの文面を見て思ったことがあって)まあもう銭湯じゃな

くてもいいや。裸の付き合いじゃなくてもいいや

上田 何？

松坂 上田さんに彼女との話聞いて欲しいことがあるんですけど

上田 また彼女さんバナシかよ…ごめん。その話今じゃないとダメかな？

松坂 えっ

上田 今日から急いでマンガ描かなくちゃ、もう新人賞間に合わないから

松坂 パパッと話すんで、ズバツと意見聞かせて欲しいんですけど

上田 うん、本当にごめん。締切が来週の火曜だから

松坂 …（上田が描き始めたマンガを覗いて）いやホント俺、今上田さんの意見欲しいんですけど

上田 …（ペンを置いて）俺は今！ マンガ描かなくちゃダメなんだよ！

松坂 わかりましたよ！ …はいはい、たまには一人で考えてみます

雨が降り始める。

松坂 うわあ、最悪！ これ明日の朝刊配達する頃、どしゃ降りのパターンじゃないですか！

上田 松坂くん、声大きいって

松坂 上田さんの配達エリアはマンションが多いからイイですよ…俺んところは一軒家多いから
の日はキツイんですよー

上田 あっでも、明日から俺、年末まで店長の配達エリアも回るようになったんだよ

松坂 ええーマジですか

上田 しかたないよ。今、店長は新規の勧誘で走り回ってるから

松坂 じゃああの長い橋も渡らなきゃダメなんですか？

上田 …そっだね

松坂 あっ、俺上田さんに聞こうと思ってたことあるんですよ

上田 …何？

松坂 何か昔、あの橋で中学生が友達を川に突き落として殺したことがあるんですよ？

上田 …何？ それ

松坂 あれ？ 上田さん知らないんですか？

上田 何それ、知らない

松坂 いや何かそういう事件があったみたいですよ

上田 誰から聞いたの？

松坂 誰だったかなあ…えっつと、ちょっと待って下さいよ。思い出しますから

上田 いやいいよ。それより早く銭湯に行かないと閉まっちゃうよ

松坂 ですね。じゃあ、俺、銭湯行ってきますー

松坂、一度自分の部屋に戻り、お風呂グッズを持って階段を下りて店から外に走っていく。

上田、部屋の鍵をかけた後、胸騒ぎを感じて部屋の中をグルグル歩く。

平野、パソコンで作業している。

雨、激しくなる。最も激しくなったところで1階の電気が消えて、2階の電気も消えていく。
暗転。

2場 12月24日火曜日(クリスマスイブ) 昼 13時頃

明転すると、2階で上田と近松が向かい合っている。1階には誰もいない。
外には雪が降り続けている。

近松 30分だけでも勉強会しようよ

上田 すいません、本当に今日はダメなんです

近松 何でよー最近夜は忙しいからあかんあかんばかり言ってたから、せつかく昼に来たのに、

上田 今日はどうしてもやる必要があるんです

近松 ほんだら10分だけ。10分ぐらいいええやろ？

上田、近松の右手の小指に包帯があることに気付く。

近松 ああこれな。これ恥ずかしい話やけど、こないだ冊子持って3丁目に訪問したら、えらい剣幕でこーんな太ったおばちゃんに突き飛ばされてな

上田 突き指ですか？

近松 いや、骨折してみたいやわ。着物はそんな時、不便やな。バーンって突かれたら、うまいこと受け身とられへんわ

上田 誰がそんなひどいことしたんですか

近松 まあ、ええねんええねん。そんな慣れっこやから

近松、バックから何かを取り出そうとしている。

近松 あれ？ あっしまったあー忘れてもうたあー

上田 何をですか？ 冊子ですか？

近松 いやいや、ちやうねん。今日イブやろ？ そやから、上田さんにクリスマスプレゼント持ってきたのに忘れてきてもうたわあー

上田 …

近松 ああー一刻でも早くあんとこに行かなあかんわあーって思ってたからやな

と言って近松、笑う。

1階奥から金物店の越(こ)しが作業着姿で腰を伸ばしながらトイレから出てくる。

そして外に出て自動販売機の缶コーヒを買って、店に戻り外の雪を何となく見ている。

上田 何か、すいません

近松 また持ってくるわな、ごめんな…ほんだら、10分だけでもこないだの続き、あなたは希望に満ち溢れていますか？ あなたは希望に満ち溢れていますか？ ってところから読んでいこか

上田 近松さん、ホントに今日は10分だけで

近松 (さ)えぎって) わかってるって、何回も言いな。ほんだら冊子出して

上田、本棚から冊子を探すが、見つからない。

近松 何してんのよ、どこに置いたんよ

そこに下手から傘を手に、かつて上田の担任だった女性教師の千葉が現れる。

千葉、店の全景を眺めている

越、千葉に気付いて。

越 何か用ですか？

千葉 あっ…あのーすいません。この店に坊主頭の従業員はいますか？

越 …

千葉 あっいませんか？ いなかったら大丈夫です

越 いえ、いますよ、上田さんのことですね？

千葉 …はい

越 ちょっと待って下さいね

近松、座布団の下にあった冊子を見つける。

近松 あるやん、ここに！ もうーどんなどこに置いてるんよ

越、階段の手前から2階に向かって。

越 (大声で) すいません！ 上田さん、お客さんです！

上田 はいー！ (近松に) あっ、ちょっと待っててもらっていいですか

上田、急いで階段を下りていく。

越、缶コーヒを一気に飲み干してから再びトイレに向かう。

上田、階段から下りてきて、千葉と目が合う。

間。

上田 ちょっと待っててもらっていいですか

千葉 …(静かにうなづく)

上田、急いで階段を上がっていく。

上田 (焦って) 近松さん、すいません。今、お客さん来たんで

上田、近松のバッグを持って帰るよう急がす。

近松 えっ何で？ 私の方が先に来てるんやから、ちょっと待っててもらったらあかんの？

上田 ダメなんです！ すいません、ホントにダメなんですって！

近松 もうー今来たところやん。ドッポやん、こんな

上田 すいません、近松さん、ホントにすいません

近松、渋々と階段を下りていく。

近松と千葉、お互い軽く会釈する。続いて、上田も階段から下りてくる。

近松、納得いかない様子だが、下手から帰っていく。

上田 上でお願ひします

上田、そう言って急いで階段が上がっていき、千葉も続いて上がっていく。

2階に着いて、上田、自分の座布団を千葉の近くに置いて神妙に正座する。

千葉 剃ったの？ 髪の毛

上田 ああはい

千葉 すぐにはわからなかった

上田 どこで僕を見かけたんですか？

千葉 この前、古川橋でね

上田 ……

千葉 橋の上からポツと川を眺めている人がいたから

上田 ……

千葉 あれ、これはいつか見た光景だなあーって思っていたら

上田 ……

千葉 松本くんだった

上田 ……はい

千葉 近くに止めてた自転車見たら、ここの新聞配達のだったから

上田 岡谷先生、僕がこの町に帰ってきたこと誰にも言わないで下さい

千葉 ……

上田 お願いします

千葉 誰に言うの？ そんなことわざわざ

上田 ……

千葉 私はただ松本くんに会いに来ただけだよ…あつ、今は上田くんって呼んだ方がいいのか

上田 はい、すみません…(1階から越が聞き耳を立てていないか気になって)あつ、ちょっと待って下さい

上田、階段を下りていき、越がどこにいるのか確かめる。

すると、トイレから水が流れる音。1場のトイレ音とは違う音になっている。

上田、再び階段を上がってくる。

上田 (焦って)あのー岡谷先生

千葉 どうしたの？

上田 何というか、そのー事務員さん今お昼行って、あと10分ぐらいで

千葉 それまでに帰ってくれて

上田 ……

隣の部屋から小さくメール音が聞こえる。

千葉 隣？

上田 はい、壁薄いですから

千葉 場所変えた方がいいんじゃない？

上田 いえ隣は寝ています

千葉 でも

上田 いえ、外だと誰に見られるかわからないので

千葉 もう今となっては誰もあなたのことなんか知らないでしょ

上田 そんなことはないと思います

千葉 でももうかなり昔の話だよ

上田 事件を起こしたのは16年前ですけど、この町を出て行ってからはまだ10年しか経ってませんから

千葉 松本くんにとっては10年しか経ってないんだ

上田 …岡谷先生は今もあの中学に？

千葉 ううん、私はもう教師じゃないよ

上田 えっ？

千葉 うん、あなたがこの町を出て行った後に辞めたから…それに私、岡谷じゃないから。今は千葉って名前

上田 千葉

千葉 離婚したんだ

上田 離婚

千葉 私についていけないって

上田 ついていけない

千葉 いいのよ、私のことは

上田 …はい、すみません

千葉、近くにあった冊子を手にとって。

千葉 何？ 「方舟の教え」だったの？ さっきの女の人…方舟はしつこいもんね

上田 …

千葉 (冊子を見て) あなたは希望に満ち溢れていますか？

上田、何か恥ずかしくなって千葉から冊子を取ろうとする。

千葉 何？ 今になって宗教にハマってるの？

上田 いえ、なかなか断れなくて

千葉 ダメだよ、ちやと断らないと…神は信じてませんからって言えばもう来なくなるから

上田 えっ…

千葉 何？

上田 いや、先生

千葉 …(笑って)ああ、そうだね。まああの頃は私も宗教にハマってたもんね

上田 …今は？

千葉 今は神には頼ってないから

上田 頼ってない

千葉 まあ、それだけ時間が経ったっていうことだよ

隣の部屋から電話の呼び出し音が聞こえる。

しばらく鳴り続けてから、電話切れる。

千葉、部屋を見渡して。

千葉 いつこの町に戻ってきたの？

上田 今年の春です

千葉 そうなんだ

上田 すいません

千葉 何で謝るの？

上田 突然いなくなっって、すみませんでした

千葉 ホント、何にも言わずに…(立ち上がって)まあ言わないでどこかに行く気持ちもわかるけど

上田 すいませんでした

千葉、本棚を埋め尽くすマンガを眺めて。

千葉 やつぱり、マンガ好きなのは今もいっしょか…（急に笑って）今でもやってるの、あれ
上田 あれって？

千葉 音楽カンガンにかけて、マンガの熱いセリフを大声出して読んでたでしょ？

上田 …（とまどいながら）よく覚えてますね

下手から加藤が傘を手にお昼休憩から店に戻ってくる。

加藤 （奥のトイレに向かつて）金物屋さん！

上田、加藤の声に反応する。

越 （奥のトイレから出てきて）はい！

加藤 お昼行って来て下さい

越 じゃあ、そうさせてもらいますか

加藤 はい、そうしてください

越 いつの間にかどんどん降ってますね、雪

加藤 あの一良かったら使ってください、傘

加藤、自分の傘を渡そうとする。

越 ああ、大丈夫です…（帽子をかぶり）その辺で食ってきますから

越、身体を伸ばして腰を反る。

越 あとちょっとで工事終わりますからね

加藤 あっはい

越 びっくりしますよ、最新型のウォシュレットは…ホント前のトイレは汚かったですからね

加藤 …

越 じゃあ、ちょっとその辺で食ってきます…（行きかけて）あっ、まだトイレは使わないで下さいね

加藤 はい、わかりました

越 すいませんね、わざわざコンビニのトイレなんか使わせて

加藤 いえいえ、全然大丈夫です

越、外に出ていく。

加藤、何かニコニコしながらパソコンがある机に座る。

上田 （焦って）先生、事務員さん帰ってきました

千葉 何をそんなに慌てるの？

上田 いや中学の頃の先生が今頃何しに来たのかって聞かれたら、何て言えばわからないですから

千葉 私のこと、中学の頃の先生なんて言わなきゃいいでしょ

上田 あっそうか…でも誰ですか？ って聞かれたら

千葉 そんなにビクビクするぐらいなら、何でこの町に帰ってきたのよ
上田 ……

千葉 そんな毎日じゃ疲れるでしょ

上田 いや帰ってくるつもりはなかったんです

千葉 どういうこと？

上田 ただ久しぶりに店長に会いたかっただけで、何かどうしても会いたくなって

千葉 店長？

上田 はい、僕が少年院を出てから働いていた工場でお世話になってた人なんですけど

千葉 あれ？ その人って

上田 あっ先生知ってたかあ？ 平野さんという人です

千葉 ああー平野さんっていたねえー松本くん、よくその人の名前出してたもんね…えっ、あの人
がこの店の店長なの？

上田 はい、あれから平野さん、ここを買い取って自分の店にしたんです…それで久しぶりに会っ
た僕にここで働けよって誘ってくれたんです

千葉 そうなんだ

上田 はい、ホントに嬉しかったんです。そんなこと言ってもらえて

千葉 そうか、そういうことだったんだ

下手から傘を手に松阪の彼女・円山が現れ、店に入ってくる。

円山 (関西弁) すいません！ 上田さんを呼んでいただけでしようか？ 円山と言います

加藤 ……(不審がって)あのー宗教の方ですか？

円山 宗教？ 誰がですか？

加藤 ……あつ、すいません。ちょっとお待ちください

加藤、階段を上がっていく。上田、階段の音に反応する。

上田 (焦って) ええー事務員さん上がって来ました

加藤 (ノックしながらドアを開けずに) 上田さん、下にお客さんが来てるので、お願いします

上田 (ドアを開けずに) 誰ですか？

加藤 (ドア越しに) 円山さんという女の方です

上田 円山？ そんなお客さんいたかな？

加藤 とにかくお願いします

上田 はい、今、行きます

加藤、階段を下りていく。

上田 すいません、ちょっと下りてきます

上田、階段を下りていく。

店の中で立っている円山を見て。

※上田と円山の会話中、千葉は本棚にある青春マンガを読んでいる。

上田 (円山を見て) えっ僕ですか？

円山 ああはい、松坂さんには何回かメールとか電話したんですけど、つながらなかったんで

上田 あーまだ寝てるんで

円山 (喜んで) ああそうですよね、まだ寝てるんですね

上田 ……?

円山 あっ、今日は上田さんに用事があったんで

上田 僕にですか?

円山 松坂さんから返してもらおうって思ってたんですけど

円山、バックから何か原稿が入ってそうな茶封筒を上田に渡す。

上田 何ですか、これは?

円山 (笑顔で) こっそり上田さんのマンガ読ませてもらったんです

上田 えっ! ……(袋からマンガの原稿を見て) えっ、うそ、なんで、どういこと?

円山 松坂さんが面白いから読んでみろって

上田 (焦って) ちょっと待って下さいよ。何で、そんなことになってるんですか?

上田、加藤の視線を感じて、円山を店の外に連れて行く。

円山 青春マンガって、やっぱりいいですね

上田 ……えっホントに読んだんですか? 何か恥ずかしいんですけど

円山 私高校ちゃんとして行ってへんから、あんな高校生活に憧れるわあー(マンガの内容を話す)あのギリギリした真夏の日、高校球児とマネージャーが草むらに入ったボールを取ろうとして手と手が触れ合って、恋が生まれる瞬間とか

上田 ああ、あのシーン

円山 いいですよー。ピュアなラブストーリーって

上田 ……えっ

円山 あれ? 違いました?

上田 いや、あのマンガはラブストーリーじゃなくて友情物語のつもりだったんですけど

円山 あっ…(笑って)そうでした?

上田 はい、ピッチャーとキャッチャーの友情物語のつもりで書いたんですけど

円山 ああそうですよね、そうでした

と言って、円山笑いながらなれなれしく上田の肩を叩く。上田、つられて苦笑い。

上田と円山、店の中から作業するフリをして二人を見ている加藤の視線を感じる。

変な間があって。

円山 あっ用事はそれだけなんで…じゃあ、私帰ります

上田 松坂くんは呼ばなくていいんですか?

円山 大丈夫です。私、これから学校があるんで、このまま失礼します

上田 学校?

円山 はい、今日はこの近くにある、さつき町病院で実習なんです。それじゃあまた

円山、小走りで帰っていく。

上田 (見えなくなった円山に向かって) 松坂くんには来たってこと伝えておきますから

上田、店に入り加藤を手ラツと見て。

上田 すいませんでした

加藤 あのー上田さん

上田 はい

加藤 用があるたびに2階に上がるの面倒なんで、これからは下から呼んでいいですか？

上田 下から？ あっ、はい。そうして下さい

加藤 じゃあケータイ番号教えて下さい

上田 ……すいません、僕はケータイ持ってないんです

加藤 ……

上田 すいません

上田、申し訳なさそうに頭を下げて階段を上がっていく。

千葉、青春マンガを読んでいる。

上田 隣の彼女さんでした

千葉 隣と仲いいんだ…(マンガを本棚に戻し)友達できたんだね

上田 友達というか…まあ、向こうが色々話しかけてくれるので

千葉 そうなんだ

上田 今年の秋から住み込みで働きに来ていて

千葉 隣はどんな人なの？

上田 どんなんて…普通の人です

千葉 普通って、さっぱりイメージわかないんだけど

上田 先生

千葉 何？

上田 言わなくてもいいですよね？

千葉 えっ

上田 いや何か隣は僕に色々正直に話してくれるから、何か最近ちょっと心苦しくて

千葉 ああそういうことか

上田 でもまあ言えないんですけど

千葉 言えないんだ？

上田 ……えっ？

千葉 そっか

上田 何がですか？

千葉 隠し続けなきゃいけない罰はまだ続いてるんだね

上田 ……はい

千葉 (立ち上がって)じゃあ、そろそろ帰るね…(腕時計を見て)もう昼休憩も終わっちゃっし

上田 昼休憩？

千葉 うん。私、今は古川橋の近くにある缶詰工場で働いてるの

上田 工場

千葉 そう、三交代の不規則な毎日

上田 ……先生、何か今日はありがとうございました

千葉 あっ安心してね。ここに来るのはもう最後にするから

上田 えっ

千葉 もう平野さんだけでいいでしょ？ あなたの過去を知ってる人は…(苦笑して)というか、

私はあなたの力にはなれないし。まああの頃も何の力にもなれなかったけど…何か、やるせない話だけだ

上田 やるせない？

千葉 ああ、何かどうしようもないなって気持ちのこと

上田 知ってます、言葉の意味は。あの頃、先生がよく言ってた言葉ですから

千葉 あああの頃の私ね。教師になって、まだ間もない頃だったね

上田 …

千葉 どうしたの？

上田 先生は何も悪くないですから

千葉 えっ

上田 先生が何か責任を感じるようになって全然ないですから

千葉 …

上田 僕が先生に何も言わずにこの町から出て行ったのは…もう先生には僕のことを忘れて欲しいからです

千葉 忘れることなんてできるわけないでしょ

上田 …

千葉、立ち上がる。

千葉 じゃあ新聞配達頑張ってるね…これから橋で会ったとしても、私のことは無視してくれたらいいから。私もそつするから

上田 …

千葉 じゃあね

上田 あっ先生！

上田、急いで本棚の裏側に隠してたマンガの原稿を取り出す。

上田 先生！ これ読んで下さい

千葉 何、これ？

上田 今、マンガ描いてるんです

千葉 もうやめたんじゃないの？

上田 ここに帰ってきてから、また描き始めたんです。この前久しぶりに描いた野球マンガを直接持ち込んだりしました

千葉 持ち込み？ 出版社に？

上田 でも全然面白くないって…逆転サヨナラホームランを描くのはいいんだけど、その結末に行きつくまでの物語がスカスカだって…君ひよっとして高校行ってないんじゃない？ って言われました…何かすごく見透かされるようで腹立ってきて…（その時編集者に抱いた感情があふれてきて）俺が一生懸命描いたマンガを何でそんなにあつという間に読むんだよ！ もっとちゃんと読んでくれよ！ 何で鼻で笑いながら読んでんだよ！

千葉、上田が感情を隠さず言葉をまくし立てる姿をじっと見ている。

上田 （怒りの感情を爆発させた後、落ち着いて）…って心の中で叫んでました

千葉 心の中で…笑って…そうなんだ、大人になったじゃないの

上田 はい、もう30ですから

千葉 そうか、30才になったんだね

上田 …はい

千葉 ちょっと、そのサヨナラホームランのマンガ読ませてよ

上田 いや、そのマンガはもうボツにしました。店長にも読んでもらったんですけど、こんなありきたりのどこにでも転がってる夢物語なんか、ちっとも面白くないって言われました…先生、この新しいマンガを今読んで下さい

千葉 今読むの？

上田 はい、今です。あとラストシーン描くだけなんですけど、そこまで面白いかどうか教えてください

千葉 でも、もう仕事に戻らなくちゃダメだから

上田 仕事は何時に終わりますか？

千葉 えっ今日じゃなきゃダメ？

上田 今日が締切なんです。少年マンガジン新人賞の

千葉 (驚いて) 間に合うの？ 最後まで描けてないんですよ？

上田 今日の夕刊配達は休みもらったので、今からあと1ページだけ描いて直接出版社に夜まで持っていく間に合います

千葉 でも、今日は夜遅くまで仕事入れられたんだ。ほらっイブだから人出足りないからって

上田 …(残念そうに) そうですか

千葉 わかった！ 早退させてもらうから。いったん工場に戻ってまた夕方までに戻ってくるから

上田 いいんですか？

千葉 (頼られて嬉しい) だって、私に読んで欲しいんですよ？

上田 はい！ 先生に読んで欲しいんです！

千葉 (頼られて嬉しい) わかった！

上田 夕方まで、ラストシーン絶対に完成させておきます

千葉 うん頑張ってるね…(腕時計を見て) ああー急がなきゃ。それじゃあまた戻ってくるから

千葉、急いで階段を下りていく。

上田も千葉を見送るため階段を下りていく。

千葉 それじゃあね

上田 はい！

千葉が帰ったのと入れ違いで近松が下手から現れる。

上田 あっ！

近松 お客様、帰っていったな

上田 …待ってたんですか

近松 うん。ほんなら勉強会しよか。10分だけでええから

上田 …わかりました。ホントに10分だけお願いします

上田と近松、店の中に入ってくる。

すると加藤、勢い良く奥の事務室から出てくる。

加藤 すいません！ 店には入らないでもらえますか

近松 …えっ

加藤 宗教の人はもう店には入れるなって、店長から強く言われてるんで

近松 そんなあ

加藤 すいません！ 帰って下さい！

近松、助けを求めるように上田を見るが下を向いている。

加藤、近松をにらんでいる。やがて近松、寂しそうに店から出ていく。

加藤、奥の事務室に戻る。上田、加藤に頭を下げて階段を上がっていく。

そして机の前に座り、原稿を読み始める。

そのうち、だんだんと感情が高ぶって声に出していく。

上田 (マンガの内容を一人芝居で演じる) さあロスタイムに入りました。0対0。どちらの高校もなかなか一点が取れません。あっ！とここでピッチ上で倒れている選手がいますね。しかし、塩尻高校はもうベンチには誰も残っていません。残っているのは、足にギブスをしている飯山くんだけなんです。：「監督、俺を出させて下さい」あっ！と飯山くん、足のギブスをはずしていきますよ！

上田、セリフを口にしながら、ラジカセのボタンを押す。

すると、上田の中学時代に流行った90年代終わり頃の歌謡曲が流れ始める。

上田 「飯山！ よせ俺はまだ走れる」「松本！ お前の代わりは俺しかいない！ 足がちぎれてもゴールネットを揺らしてみせるぜ」出てきました、出てきました。足のギブスをとった飯山くんが今、ピッチに！

上田、感情を高ぶらせて、さらにラジカセのボリュームを上げる。

上田 「お前と過ごした3年間をムダにはしないぜ！」おっ！物凄いスピードで、ゴール前に走りこんでいく飯山。うわあーすごいドリブルだ！ 一人二人とディフェンダーを抜き去っていく！

ラジカセの大音量は1階まで聞こえるようで、加藤、頭を抑えながら急いで階段を上がる。そして激しく上田の部屋のノックする。

上田 (ノックに気付いて) あっ

上田、慌ててラジカセを止める。

加藤 あのー音楽、ガンガンにかけるのやめてもらっていいですか？

上田 (ドアを開けて) すいませんでした

加藤 下まで音が響くんです。昨日も言いましたよね、私

上田 ……すいません

加藤 もうホントにやめてください！ 店長に伝えますから

上田 あっそれだけはやめてください

加藤、怒りながら階段を下りて机に戻る。

そこに下手から円山が再び現れて、店の中に入り急いで階段を上がっていく。

加藤 …(円山に気付いて)えっ

円山、2階の奥の松坂の部屋を激しくノックする。※ノック音だけ激しく聞こえる

上田 (ノック音に気付いて)…えっ

円山、今度は上田の部屋をノックする。上田、ドアを開ける。

円山 上田さん…(半泣きで)松坂さん、ほんまに寝てるんですか？

上田 えっ…あっはい今朝の配達かなり時間かかったんで

円山 ホントにまだ寝てるんですか？

上田 だと思えますよ。今日から新人の配達員入ってきたんで、色々仕事教えてましたから

円山 いやいや、さっきから私何回もメールとか電話してるのに、それで起きないってやっぱりおかしいですよ。そんなこと今まで一度もなかったんですから

上田 …縁起でもないこと言わないで下さいよ

円山 縁起でもないこと？

上田 どうしましゅう？ こういう時は警察に連絡した方がいいですか？ それとも救急車？

円山 救急車？ いや違つんです。彼は居留守を使ってるんですって

上田 居留守？ 何で、そんなこと

円山 何でって、そんなん私に会いたくないからなんですって

上田 何で会いたくないんですか？

円山 …彼、何か言っていました？

上田 何かってなんですか？

円山 上田さんには何でも話してるんでしょ？

上田 いやそんな話は何も聞いていませんけど

円山 (ギョギョって)わかりました

と言って円山、また隣の部屋を激しくノックする。

加藤、頭を抑えながら電話をかける。

加藤 (電話)…ちよっと店長、2階に変な女が上がって発狂してるんですけど、どうしたらいいですか？ …えっ、いや知らない人です…今、金物屋さんもお昼に行ってるので…いやいや私ちよっと恐いんですけど…はい、お願いします。とにかく店に戻ってきてください

上田、ドアを開けて、円山を自分の部屋に連れてくる。

上田 ちよっと落ち着きましよう。うん、落ち着きましよう

円山 (興奮)はあはあはあ…あっ…

円山、過呼吸を起こしその場に座り込む。

上田、突然のことで何もできない。

円山、ゆっくり深く息を吸い込んだりしながら、過呼吸を収めていく。

円山 (徐々に落ち着き始めて) ああー過呼吸きてもうたあ。過呼吸きてもうたあ
上田 大丈夫ですか

円山 ああ何とか…すいません

上田、円山の近くに座布団を置く。

上田 松坂くんが起きてくるまで、ここで待っていたらいいですよ

円山 そんなんいつになるかわからんやないですか

上田 いや、もういつもなら起きてくる時間ですから

円山 でも

上田 僕はここで勝手にマンガ描いてますから…その辺に座ってマンガでも読んで下さい

円山 …(座布団に座って) すいません。ほんだらちよっとだけ待たせてもらいます

円山、上田から離れてドア付近で申し訳なさそうに座る。

上田 あれ？ 看護学校は？

円山 休みました

上田 …

しばらく無言があつて。円山、本棚を眺めている。

上田 どんなマンガが好きなんですか？

円山 あっ、私はやっぱり恋愛もんですね

上田、立ち上がって本棚を見る。

上田 恋愛ものはあんまりですねえー

円山 (少し笑って) あんまり興味ないんですか？

上田 そんなことないですけど

円山 やっぱり熱い男と男の友情もんですか？

上田 まあそうですね

円山 …(上田を見て) 上田さんって、すごいですよ

上田 何がですか？

円山 新聞配達しながら、マンガ家になるって夢を持ってるんでしょ

上田 …(嬉しそうに) えっー松坂くん、ホントに何でもしやべるんだな

円山 ええ、そやから何か上田さん情報は結構知ってるんですよ

上田 (焦って反射的に) 例えは？

円山 例えはですね…今時ケータイも持ってないとか

上田 (ホツとして) ああ、それね

円山 いや変な意味やなくて、何か自分を持ってる人やなあーって

上田 自分を持ってるってどっいうことですか？

円山 いや何か流されないって言うか

上田 …ただ友達がいらないだけです

そこに松坂がバツ悪そうに入ってくる。

松坂 上田さんの部屋で何してんだよ

円山 やっぱり

松坂 やっぱりって何よ？

円山 居留守やったんや

松坂 いやホントにさっきまで寝てたんだって

円山 さっきって、いつよ？

松坂 お前がドアをドンドン叩くまでだよ

円山 私、何回連絡したと思ってるんよ。見た？ 私のメール！

松坂 …でも今日の朝、ちよっとしばらく会わないでおこうってメール送ったよね？

円山 そんなん今日の夜の約束はどこにいったんよ！

松坂 …

円山 何でそんな大事なことでメールで済ますん？ 会って話さなあかんやろ！

間。

上田 松坂くん、ちよっとそついう話は隣でやってくれるかな。ここは俺の部屋だから

松坂 あっ、すいません

円山 すいません

松坂 …(円山を見て)じゃあ、俺の部屋で

松坂、出ていく時に円山の腕をつかむが彼女にふりほどかれる。二人、出ていく。

上田、鍵をかけて再びマンガに向かいラストシーンを描き始める。

上田 (小声で)「お前と過した3年間をムダにはしないぜ！」おっー物凄いスピードで、ゴール前に走りこんでいく飯山。うわあゝすごいドリブルだ！ 一人二人とディフェンダーを抜き去っていくー

越、風ごはんから帰ってきて店に入ってくる。

越 ただいま、戻りました

加藤 (変な女のことを言おうとして) あっ、金物屋さん

越 わかっていますよ、もうあとちよっと工事終わりますから

越、急いで奥のトイレに入っていく。

新しいトイレの水が流れる音。

そこに松坂が戻ってきてノックする。上田、洪々鍵をはずしてドアを開ける。

松坂 (部屋に入ってきて) 上田さん

上田 何？

松坂 すいません、ちよっと話聞いてもらえますか？

上田 いや、マンガ今日締切だから。それにそついう話は二人で話し合うことなんじゃないの

松坂 いや、彼女も上田さんに聞いてくれって言うから

上田 何それ？

松坂 先週、俺上田さんに聞いて欲しいことがあるって言うてましたよね？

上田 ああ、ごめんね

松坂 でね、俺、あの時相談したかったことは

上田 話長くなる？

松坂 なんないです、パパッと話しますから、マンガ今、頭の中から忘れて下さい

上田 じゃあ、パパッと

松坂 俺、付き合ってるヶ月経つたり、過去のこと話そうと思っていたんです

上田 ……うん

松坂 店長はそんなこと話さないでいいって言ってたんですけど、俺はやっぱ…で、話したらね。

あいつにも過去があったんです

上田 えっ…(小声になつて)彼女さん、犯罪者だったの？

松坂 犯罪じゃなかったんですけど…あいつ、過去に風俗で働いてたんですよ。俺、風俗は詳しくないから知らないんだけど、性感がどうのこうのでマッサージしてたって！

上田 …だから？

松坂 いやいや、マッサージしてたんですよ。性感がどうのこうの一回春マッサージがどうのこうのって

上田 うん

松坂 いや、うんじゃないでしょ

上田 えっ

松坂 いや、えっでもじゃない！ いやでしょ、そんなことは男としては

上田 まあね、色んな男とあーだこーだあるんだからね

松坂 でしょ

上田 でも今はやってないんですよ？

松坂 (怒って) 当たり前じゃないですか！

上田 (怒り返して) じゃ何も問題ないでしょ！

間。

そこに円山、入ってくる。

円山 上田さん、何て言ってた？

松坂 まだ話終わってないから、俺の部屋で待ってるって

円山 上田さん、どこまで話聞きました？

松坂 話のコアな部分は聞いてもらったよ

円山 ほんだら？ (上田に近付き) 上田さん、ほんだら？

松坂 上田さんは何も問題ないって

円山 ほらっ、見てみーや。私、上田さんは絶対そう言うやろって思ってた

松坂 ……

円山 何？ あんたは別れた方がいいやろって言うと思ってたん？

松坂 あのね、俺はたいいていのはアリなんだけど、自分の彼女が風俗してるってのはキツイん

だよ

円山 そやから、昔のことやないの

松坂 昔でも！ 俺、そのこと聞いてから何日もイメージトレーニングしてたんだよ

円山 何や、それ？

松坂 お前が他の男に何かされるのを想像しても、平常心をキープできるようにナチュラルな気持

ちを持ってるように

円山 いや、私が男の人にやる方やったんやけど

松坂 どっちでもいいよ！ そんなことは！

円山 そうなん？ それはどっちでもええん？

松坂 今、俺がしゃべってるから！ それでね…ちよつとは慣れたかなと思ってるけど、ふと新聞配ってる時にお前が俺とは違う男とあーだこーだしてるシーンが浮かんできては原付を止めて、川の土手で小石を投げながら、たたずんでいたんだよ！

間。

円山 そんなん風俗やなくても、26年も生きてきたら色々あるやろ、ナチュラルに

松坂 その色々は恋だとか愛だとかだろ。風俗は全然違うって

円山 そやから言っただやん。私どうしても看護学校の学費払わなあかんかったって。家から出て来るとき、親に頼らず一人で生きていくって決めたんやから

松坂 だからって、何で風俗で働いたのかって話だろーがよ！

円山 ちよつと待って、何で私ばかり責められるんよ！

松坂 …

円山 結局あんたはまだロリコンのままなんや

松坂 ロリコン？

円山 そうやないの、あんたは何にも知らん女の子がいいんやろ？ また近所の小学生の女の子、

プールに連れて行ったらええねん！

松坂 あれはそういうつもりで連れて行ったんじゃねえからって話したよね？

円山 でも、結局は抱きついたんやろ？

松坂 だから、それはちよつと魔がさしたんだって話したよね？ 今はもう更生したって話したよね？

円山 ほんまはまだロリコンちゃうのん？ …(後ろにさがりながら)無理…無理無理

松坂 ロリコンがさ！ 病院の屋上で！ 大人のお前に！ バラの花束渡して！ …付き合ってたさいつて言わねーだろ！

円山 ごめん。何かあのシチュエーションものすごく寒気してきたわ…寒っ

松坂 お前、あの時目の奥に光るもんあったじゃねえのかよ

円山 ああーあほらしっ。ほんまに何で正直に私言っただんやろ

円山、力が抜けて座り込む。

上田 正直に自分の過去のことを言えるっていいことだと思っけど

松坂 あっ、上田さん、すいませんでした。おい、もう俺の部屋に戻ろ

松坂と円山、戻ろつとする。

上田 ちよつと待ってよ

松坂と円山、立ち止まる。

上田 別に深刻でもなんでもないじゃない。どっちも過去を許したらいい話でしょ…何か、二人で遊んでるだけに見えないな

松坂 遊んでる？ そんな風に見えますか、これが

上田 じゃあ何？ これは何？

松坂 何って

上田 だから、許したらいいだけじゃない

松坂 それができないから難しいんじゃないんですか！

上田 できるでしょ、そんなこと！

松坂 聞いてもらってこんなこと言ってもなんですけど、過去を隠してる人にそんなこと言われたくないですね！

上田 ……

松坂 俺は恋人でも友達でも隠し事なしで付き合ってるよ

上田 (さきぎって) そうだよ、俺もその方がいいと思ってるよ

松坂 いいと思ってもそれをやらないじゃないですか！ 上田さんは！

上田 ……

松坂 俺の部屋に戻ろう。お騒がせしてすみませんでした

上田 ちょっと待ってよ！ ああーそうだよ。松坂くんが気になっていた通りだよ。俺が銭湯に行きたくないのは、身体中にあざがあるからだよ。そんなものが見たいのかよ。見せて分かり合えるならいつだって見せてやるよ、あざだらけの身体を

上田、興奮して服を脱ぐ。身体にはあざがある。
間。

上田 どう？ これでもいいんでしょ

松坂 ……わかりましたよ。もう服を着てくださいよ

上田 俺も隠し事がない関係がいいと思うけど、隠してることを言った時から急に分かり合えなくなることもあるんだよ…でも松坂くんたちは過去を言い合って、もっともつと分かり合えるって思ったんだから、それがきつと二人にとって正しいんだと思うよ。過去が許せない人たちなら、そんなこと言い合わないから。いや、わかんないな。でも過去が許せないなら別れるしかないでしょ？ いや、俺は別れて欲しくないね。過去は過去なんだし…今はもうそんなことやってないんだから。大事な今は今なんじゃないの！

間。

平野と新しく入った女性アルバイトの坂本が出先から戻ってくる。

平野 まだいるのか？ 変な女

加藤 はい、何かケンカしてるみたいです

平野 誰と誰が？

加藤 いや何かよくわかんないですけど、多分三角関係っぽいんですよ

平野 ……(坂本に) ちょっと待ってて

坂本 はい

坂本、作業台近くのベンチに座る。

平野、階段を上がっていき部屋のドアを開ける。

平野 何してんだよ…(円山を見て) あんた誰？

円山 初めまして、円山と申します

松坂 俺の彼女です

平野 彼女さん？ 何だよ、三角関係って

松坂 三角関係？

平野 いや加藤が

松坂 いやいや店長、違つんです。ちょっと彼女とケンカしてて、上田さんは巻き添え食らつたつていうか

平野 何だよ、それ…世話かけるなよ

松坂 すいません

円山 いえ、私が勝手に入ってきたんです。迷惑かけたのは私なんです

平野 …まあ、とにかく何もなかったんならいいけど

松坂 じゃ、ちょっと外行こうか？

松坂、自然に円山の手をとる。円山も嫌がらずに受け入れる。

二人、出ていこうとする。

平野 おい、夕刊のトラック来るまで戻ってこいよ

松坂 わかっていますって…上田さん

上田 えっ？

松坂 今日の夜はいっしょに風呂行きましょうよ。俺お風呂入りますから

上田 …

松坂 あっ、風呂って言っても、ソープランドじゃないですからね

松坂と円山、階段を下りていく。

松坂 (新人の坂本に)あれ？ まだ仕事してたの？

坂本 はい、店長とあいさつ回りに行っていました

松坂 おおー早く仕事覚えて俺たちを楽させてね

坂本 …

松坂 (加藤に)お騒がせしました！

加藤 …

松坂 上田さん！ 何かありがとうございました！

円山 ありがとうございます！

松坂と円山、店の外に出る。

松坂 うわぁー何？ いつの間にこんな降ってたの

円山 あそこ見て！すごい雪景色

松坂 おおー

松坂と円山、傘もささずにはしゃきながら外に出ていく。

平野 何、お前何かいいことしたの？

上田 (嬉しい) はい、ちょっとそつかも知れませんが

平野 やるじゃねえか。人助けポイント1点つけてやるよ

平野、そう言いながら階段を下りていく。

上田、笑顔のまま、鍵をかけて再びマンガを描き始める。

平野 何てことないじゃないか、お前もイチイチ大げさなんだよ

加藤 そういふ言い方やめてもらってもいいですか？

平野 ……

加藤 あの女の人の、ものすごい形相で店に入ってきたんですから…私本当に恐かったですから

平野 ……

加藤 店長、さっきからあの女の人の（坂本）ずっと待ってますけど

平野 ああ…じゃあ、あいさつ回りに戻るか

坂本 あのー

平野 何？

坂本 屋に行っても留守ばかりなんで、夜の方がいいんじゃないでしょうか？

平野 はあ？ 昼でも意味あんだよ。お前が配達順路覚えるだろ

坂本 ……

平野 何、文句言ってるんだよ。初日から遅刻してきた奴が

坂本 すいません

平野 遅配は新聞屋にとって、死活問題なんだよ

坂本 ……はい

平野 わかっているのか？ ホントに。お前、もし明日遅刻したら

坂本 店長、あと何軒ですか？ あいさつ回り

平野 あと10軒ちよっとかな

坂本 ……

平野 何だよ？

坂本 今日は昼の1時まででって聞いてたんですけど

平野 そう言っただけで、もうちよっとだけ付き合え

坂本、ベンチに座ったまま動かない。

平野 何してんだよ、行くぞ

坂本 それは、パワハラですか？

平野 何だよ、パワハラって

坂本 ……

平野、イラだって作業台をバーン！と叩く。

平野 お前もうイヤなら、辞めていいよ。代わりはいくらだっているんだから

坂本 辞めていいですか？

平野 （開き直って）ああ、辞める辞める

坂本 わかりました。もう辞めますよ！

坂本、出ていこうとする。

平野 おい待て、今日の日給渡すから。加藤、1万円金庫から出してくれ

坂本 お金なら、後で私の口座に振り込んでください！

坂本、カリカリしながら下手から去っていく。

平野 何だよ、あいつは

間。

平野 加藤 今日なんだけど

加藤 今日は夜までは無理です

平野 無理だよな？

加藤 って前から言ってたじゃないですか。店長、入り時間を守れていうなら、終わりの時間も守って下さいよ。終わりがわからないとイヤなんです

平野 って言っても仕事は生き物だからさ。どう転ぶかわかんないってこともあるんだよ

加藤 私バイトですから、そういうことは関係ないんです

平野 ……

加藤 なし崩し的に残業をさせるのは止めて欲しいんです。残業代とかもちゃんと計算して下さい。何時から何時まではこれだけの給料。残業したらこれだけの給料ですよって

平野 ……わかったよ

加藤 でも今までちゃんとつけてないから、わからないです

平野 じゃあ来月からそうしてくれ

加藤 私、来月はもういませんから

平野 えっ

加藤 ……もう今日で辞めさせて下さい

平野 おい、ちょっと待てよ、どうしたんだよ？

加藤、帰り支度を急いで始める。

加藤 何で私に教えてくれなかったんですか？

平野 何が？

加藤 新しいバイトの人が今日から入ってくるよ

平野 あああいつは昨日お前が帰ってから突然決まったんだよ

加藤 どうせあの新しく入った人を私の代わりにするつもりだったんでしょ？ それなら一言言って欲しかったです

加藤、頭を下げた店から出ていく。

新しいトイレの水が流れる音。

越、トイレから出てくる。

越 平野

平野 ……ああ

越 新しいトイレ完成したけど

平野 また和式トイレに戻してくれないかな

越 できるかよ！

平野 ……加藤、たつた今辞めるって行って出て行ったよ

越 えっ！ ……ホントかよ

平野 いくらだ？ 工事費

越 いや請求書はまた後から持ってくるよ。それより、お前大丈夫かよ？

平野 何が？

越 最近、アルバイトの出入り激しくないか？

平野 ああ、楽な仕事だったって勘違いして入ってくるんだろ
越 何か…商店街の連中、言ってたぞ
平野 何を？
越 あそこの新聞屋危ないんじゃないかって
平野 バカ、危なくないよ。誰がそんなこと言ってたんだよ？
越 …誰ってことはないけど
平野 何だよ？ 気持ち悪い言い方するなよ

そこに下手から再び近松が現れ、中に入ってくる。

近松 店長さん、こんにちは
平野 何？
近松 いや、みなさんにクリスマスプレゼント持ってきたんやけど
平野 うちはクリスマスなんか祝わないからいいよ
近松 まあ、そんなこと言わんと
平野 うちはずべての宗教お断りだから。出てってくれよ…
近松 …(寂しそうな表情) そんなこと言わんといてくたさいよ

平野、近松を強引に追い返す。
近松、あきらめて帰っていく。

越 お前、言い方がキツイよ
平野 何が？
越 もうちよっとソフトに言えよ。さっきのあの事務の女の子にもキツく当たってたんだろ？
平野 だから、みんな辞めていくって言いたいのかな
越 いやまあ厳しさも必要だよ。わかるけどさ…
平野 ここは俺の店なんだから、好きにさせてくれよ
越 …まあそうなんだけど
平野 もういい？ 俺、今忙しいから
越 あつ平野、ちよっとトイレ見ても。びっくりするぐらいキレイになったから
平野 今はいいよ
越 あつそう…じゃあ何かまた困ったことあったら、俺に言ってよ
平野 ああそうするよ。ありがとう

越、店から出ていく。
間。

平野、階段を上がって上田の部屋をノックする。
上田、マンガを隠して通信教育の教材を机に置いてから鍵をはずしドアを開ける。
平野、黙って部屋に入ってきて、そのままゴロンと寝転ぶ。

平野 おい、今日入った新人も加藤も辞めちゃったよ
上田 えっ
平野 お前さ、悪いんだけど今日の夕刊無理かなあ？
上田 …
平野 間に合わないか？ 宿題

上田 あつ宿題やった後、ちょっと出かけないとダメなんです
平野 どこに？

上田 ……実は今日夜はスクーリングの日なんです

平野 ああ、登校日だったのか。それじゃあ無理だな

上田 ……ええ

平野、勢い良く立ち上がる。

平野 わかった。邪魔したな

平野、行きかけて部屋を眺める。

平野 おい、この部屋寒いな。年末までに暖房ぐらい入れろよ

上田 いえ、いいです

平野 お前、それぐらいの金はあるだろ？ 貯金だよ。酒もタバコもギャンブルもしないし

上田 貯金は…毎月、賠償金を遺族に払うためのものなんで、僕のお金ではないですから

平野 ……そうだったな。謝罪文は今も送っているのか？

上田 随分前にもういいからって、送り返されました

平野 そうか…（何か言いたいのが、適当な言葉が見つからない）

平野、黙って階段を下りていく。

上田、そんな平野を見て何か思うところがあつて階段を下りていく。

上田 店長

平野 何よ？

上田 ……僕、本当にここに帰ってきて良かったです

平野 何よ、急に

上田 あの時、僕にここで働かないかって誘ってくれなかったら、今頃どうなってたか

平野 どうなってたんだよ？

上田 多分…（笑つて）孤独死だったと思います

平野 （肩口を小突いて）その若さでそんな死に方するかよ

上田 でも、僕は店長のいる新聞屋でしか働けませんでした

平野 （嬉しい）そんなことねえよ…よしまつまたバイト募集のチラシでも作るか

上田 すぐ新しい人入ってきたらいいですね

平野 そりゃ、そうだよ…まあ今度から俺も労働時間とかちゃんとしないとダメだな…ただ、また

イチから教えるのはキツイなあー

上田 ええ、加藤さんみたいに仕事覚えるの早い人はっかりじゃないですしね

平野 まあそうだよなあ。あいつ、ちょっと面倒くさいところあるけど仕事はできたからなあ…あつ

そっか

上田 どうしました？

平野 いや日給上げるって言ったら、加藤また戻ってきてくれないかな？

上田 かも知れないですね

平野 だよな、あいつ何かにつけて金、金ばかり言ってたからな。日給上げるからって、もつー

回頼んでみるか…（決意して）うん、店のためだ

平野 ケータイで加藤の番号を探しながら。

平野 おい、トイレ、新しくなってるらしいぞ。使ってみろよ

上田 いいんですか

平野 お前、第一号でいいよ…(電話がつながって) あっ、俺だけ…いや、ちよっともう一回腹割って話したいんだけど…今どこ？ そこまで行くからさ…えっ、もうすぐ駅に着く？ ちよっと待って、今から一分でそこまで行くから

平野 電話しながら店から出て、そのまま外へ走っていく。

上田 階段を上がりかけるが、下りてきて新しいトイレに入っていく。

そこに下手から傘を手に上田の通信制高校の担任・堤と私服姿の藤沢が店に入ってくる。

藤沢 あれ？

堤 誰もいないね

藤沢 いつも誰かはいるんだけど

堤 やっぱ、店に電話してから来た方が良かったかな

新しいトイレの水が流れる音。

上田、トイレから出てくる。

上田 えっ

堤 この商店街のイルミネーションはキレイだね

上田 …

藤沢 堤先生が心配してくれて来てくれたよ

上田 心配？

堤 うん、まあ一人で来たら良かったんだけど、藤沢さんから同じ商店街だって聞いてたから

上田 すいません、最近レポト提出してなくて

藤沢 スクーリングにも来てないじゃん

堤 いやいや、だからちゃんと学校からの連絡とかは届いてるのかなと思って

上田 はい、届いています

堤 そう…じゃあ明日のクリスマスの会あるの知ってるよね？

上田 クリスマスの会？

藤沢 ちゃんと封筒開けなよ

上田 すいません

堤 まあ、あるんだよ、明日

藤沢 夕刊配ったら来なよ

上田 …

堤 いや、上田くん初めてのスクーリングの時、勉強もしたいけど、友達も欲しいって言ったから…そう言ってたよね？

上田 …ええ

上田、そんなことを言われて藤沢と目が合い恥ずかしくなる。

堤 イヤならいいんだけど、明日は違うクラスの人も来るから楽しいかなと思っただけで…

上田 …

藤沢 あんた、何とか言いなよ

間。

堤 この上に住んでるの？

上田 はい

堤 いつから？

上田 今年の春からです

藤沢 私、ホントびっくりした。あんた春からここで住んでたんだね。夏に学校でいっしょになる

まで、あんたの存在すら知らなかったもんね

堤 そういふのは灯台下暗し(と)つだいもよく(と)いって言つのかな

藤沢 何それ？

堤 身近で起きてることは意外と気がつかないってことだよ

藤沢 ふーん

堤 店長はいるかな？

上田 今、ちょっと出かけています

堤 あっ、そう、一度あいさつしたかったんだけど

上田 すいません

長い間。

堤 じゃあ今日は帰りますか。上田くんも突然来られてびっくりしてるみたいだし

上田 …

堤 じゃあ、もし会えたら明日ね

上田 …はい

藤沢 じゃあね

堤 あっ、藤沢さん、もう大丈夫だから

藤沢 えっ

堤 帰りはいいよ。もう駅までの道はわかるから

堤、店から出て傘をさして去っていく。
間。

藤沢 何で来なくなったのよ、学校

上田 最近忙しくて

藤沢 前までは毎月来てたじゃん

上田 藤沢さん、ごめんなさい。今から夕刊の準備があるから

藤沢 夕刊には早いでしょ。まだトラック来てないし

上田 いろいろあるんです

藤沢 あんた私のこと避けてない？

上田 そんなことないですけど

藤沢 嘘！ この前、商店街であんた見かけたから、手振ったのに無視したでしょ？

上田 …いや知らないです

藤沢 それより、敬語やめてよ。年いっしょなんだから

上田 …

藤沢 だったよね？

上田 ええ

藤沢 何でよ、あんなに私とマンガの話で盛り上がったのに。意味わかんないじゃんか……この商店街、私と年離れた人ばっかだし……うちのクラスもみんな若い子ばかりで話合わなくなってるって思っていたら、あんたも私と同じ27って知って、ホッとしたんだから安心したんだから

上田 藤沢さん、ホントに今日は

藤沢 ホントに今日は何なのよ？

上田 用事があるので

藤沢、外を見渡して誰もいないのを確認して。

藤沢 私、何にも知らないよ。店長から何も聞いてないよ

上田 えっ

藤沢 私、そういうの大丈夫だから

上田 そうなの？

藤沢 いや、この店って今の店長になってから色々問題あった人を雇ったりしてるから

上田 問題？

藤沢 そういうことでしょ？ 何か私知ってみんなにバラさないか心配してるんでしょ？

上田 ……

そこに平野と加藤が戻ってくる。

平野 (喜んで) おい、上田、加藤が戻ってきてくれたぞー

上田 ……

平野 (藤沢に) あれ？ 何だったの？

藤沢 ああうん

平野 あっ、加藤！ トイレ、キレイになったから入ってみろ

加藤 えっ、今は間に合ってますから

平野 入ってみろって

加藤 ……

平野 お前が第一号だから

加藤 あっはい。じゃあ

加藤、新しいトイレに行く。

平野 何？

藤沢 いや、明日クリスマスの会があるから

平野 クリスマスの会？ 商店街の会？

藤沢 いや、ここじゃなくて私らの学校の。さっきまで私らの担任の先生も来てただけど

平野 先生？ あれ、今日お前登校日なんだろ？

藤沢 登校日？

上田 店長、すいません！ 嘘をついてました

平野 ……嘘？

藤沢 あんた、ホント隠し事ばかりしてるの良くないからね

平野 何？ どうしたの？

藤沢 そんなことしてたら、いつまで経っても友達とかできないからね

平野、上田が何か隠していることを察して。

平野 まあ、ちょっと今何かいつも立て込んでるから、また遊びに来てよ

藤沢 ……

平野 後にしてやってよ。また、今日の夜にでもお好み焼き食いに行くからよ

藤沢 ……うん、じゃあね

藤沢、店から出ていく。

平野 まあ何かよくわかんねえけど、その話は後だ

新しいトイレの水が流れる音。

加藤、ニコニコしながら出てくる。

平野 どうだった？

加藤 どうって

平野 キレイだったろ？

加藤 ……はい、確かに

平野 そりゃ良かった。おい、加藤が戻ってきてくれるってさ…なあ加藤

加藤 店長、その前に

平野 おーそうだったな。上田、加藤がちょっとお前に話があるらしいから聞いてやってくれ

上田 話？

平野 ちゃんと聞いてやってくれ…ああー何か俺、ホツとしたら腹へったな。ちょっと、飯でも食
ってくるわ

平野、店から出ていく。

上田 ……(加藤を見る)

加藤 店長が勤務時間も日給も見直してくれるって約束してくれましたので

上田 はい

加藤 上田さんにも約束して欲しいことがあるんです

上田 ……僕にですか？

加藤 絶対にもう音楽ガンガンにかけないって約束してくれますか？

上田 ……はい、わかりました

加藤 絶対にもう宗教の女の人は入れないって約束してくれますか？

上田 はい、わかりました

加藤 それだけです。私、音楽の大音量や大声聞くとちょっとしたパニック起すので

上田 わかりました

加藤 マンガは別に描いてもいいですから

上田 ……えっ

加藤 いや、それは別にいいですから

上田 いいですって何がですか？

加藤 何がって？

上田 何でそこまで言われなきゃダメなんですか？

加藤 いや、だからそれはいいって言ってるじゃ…

上田 (さへぎって) 僕がマンガ描くのに加藤さん関係ないでしょ！

加藤 …

上田 (興奮して) 何でそこまで言われなきゃいけないんですか！

加藤 そこまでって

上田 (さらに興奮して) 僕がマンガを描こうがどうしようが、加藤さんには関係ないでしょ！

加藤 あっちよっと大きな声出さないでください

上田 (どンドン興奮して) 何でそんなことまで命令するんですか！

その直後加藤、パニックを起こし、めまいがしてその場で倒れる。

上田 えっ…加藤さん

上田、急いで電話をかける。

上田 救急車お願いします…えっ遅れる？…雪のせいで…どつという症状って…はい、わかりました

上田、電話を切った後、加藤をお姫様抱っこして外に出ていく。
舞台には誰もいなくなり、ゆっくりと夕方に向かっていく。

間。

上田、急いで店に戻ってきて階段を上がっていく。

そして鍵もかけず机の前に座りマンガを描き始める。

そこに平野がケータイで誰かと話しながら戻ってくる。

平野 (電話 ああそれはまあしかたないな…うん、何か色々悪かったな…それじゃあ

平野、電話を切って作業台近くのベンチに力なく座る。
そこに越が店に入ってくる。

越 平野 まあいつでもいいんだけど、トイレの請求書

平野 ああ

平野、力なく越から請求書を受け取る。
越、上を見上げて。

越 彼、いるの？

平野 いるよ

越 …

平野 何？

越 さっきの話の続きなんだけど

平野 …何？

越 何か、噂してたんだよ

平野 えっ

越 商店街の連中が

平野 何を？

越 いや、お前覚えてないかな？ ほらっ昔、中学生が同級生を古川橋から突き落としたりして事件

平野 …いや、ちよつと覚えてないな

越 でき、その中学生が今この町に戻ってきてるって噂なんだよ

平野 何だよ、それ

上田、ラストシーンを描いている。

越 …(上を見上げて)上田って人、まさかその時の中学生じゃないよな？

平野 そんなわけねえだろ。誰だよ、そんなこと言ってるのは？

越 いや、違ったらいいんだけど…お前のことだから、ひよつとしたらそんな人殺しでも雇ってないかって心配しただけだよ

平野 (笑いながら) そんな奴なんか雇ってたら、店つぶれてしまうよ

越 まあ、そつだな…でも平野

平野 何だよ

越 もしそんな人殺しを雇ってたことになってたら、これはお前の店だけの問題じゃないからな

平野 …

越 この商店街全体の問題になるんだからな

平野 それだけか？ 今ホント忙しいから。すまん

平野、パソコンが置いてある机に向かい座る。

平野 越、もう今日は帰ってくれよ

越 …わかったよ

越、店を出て去っていく。

平野、呆然としている。そして、立ち上がりゆっくりと階段を上がっていく。

平野 (ノックするが返答がないので開ける) 何だ、開けっ放しか？

上田 …あっ

平野 さっき加藤から電話あった

上田 加藤さんから？

平野 少し病院で休んだら大丈夫になったって

上田 そうですかあー

平野 でも、もう辞めますってさ

上田 ……すいません

平野 何でお前が謝るんだよ…あいつ、俺らに悪かったって言ってたぞ

上田 加藤さんが？

平野 何か、あいつパニック障害っていう持病があったんだって、みんなに隠してて悪かったって

上田 …

平野 まあ、済んだことはしかたねえな。また新しい奴見つけないとな

上田 店長

平野 何だよ？

上田 今日学校行くなって嘘ついて、すいませんでした

平野 ああ、何でそんな嘘ついてたんだ？ お前、俺には何でも言ってきたじゃないか
上田 ……言ったら、またお前の夢物語なんか誰が読むんだよって

平野 マンガかよ？ お前もうやめるって言ってなかったか？

上田 言ってみましたけど

平野 何だ？ また出版社に持っていくのか？

上田 はい、今日が締切なんです

平野 それで夕刊の配達休みたかったのか？

上田 ……はい、でもまだ最後の1ページが描けてなくて、あと少しなんですけど

平野 はあー…お前はホント店のことも何にも考えてないんだな

上田 すいません。明日からは何でも言ってお下さい

平野 明日の前に今日の仕事のことも考えてくれよ。学校の勉強ならしかたないけどま

上田 あと1ページ描くだけなんです

平野 そんなこと知らねえよ

上田 ……

平野 おい、バレたぞ

上田 えっ

平野 商店街の連中がお前のこと、噂してるみたいだ

上田 ……

平野 金物屋の越がそう言ってた

上田 何で金物屋さんが？

平野 知らねえよ

上田 どうしたらいいんですか？

平野、いきなり上田の胸ぐらをつかむ。

平野 どうしたらいいんですかって、それは店の心配かよ、自分の心配かよ！

上田 ……

平野 ええ？ どっちなんだよ？

上田 ……

平野 お前、店のこともちっとは考えてくれよ

上田 はい、すいません

そこに藤沢が店に入ってきて、誰もいないことを確かめると2階へ向かって声をあげる。

藤沢 上田くん、いるー？

その声を聞いて、平野、上田から手を離す。

平野 ちょっと、お前出て来い

上田 ……はい

上田、階段を下りていく。藤沢、上田の姿を見つけて入口付近に呼び寄せる。

平野、机にある描きかけのマンガを見て、何か力が抜けて仰向けになる。

藤沢 (小声で) 店長いるの？

上田 えっ、何ですか？

藤沢 (小声で) いるの？

上田 はい、上に

藤沢、上を見上げて。

藤沢 (小声で緊張しながら) あんた昔、人殺したって話本当？

上田 …

藤沢 詳しいことはわかんないんだけど、商店街の連中がそんな噂してたから

上田 …

藤沢 何とか言いなよ

上田 人違いです

藤沢 じゃあデマなんだね

上田 そうです

藤沢 なら良かった…この店、昔からそんなデマ時々流れるけど、実際は人殺した人なんていなかったから、まあ今回もそうだと思ったけど、あんたがそんなことしたって聞いて、私、ひっくり返りそうになったんだから

上田 …

藤沢 どうしたの？

上田 いえ

問。

藤沢 あんた、ホントどうしちゃったんだよ。ついこの前まで学校であんなにしゃべり続けていたじゃん…青春マンガのセリフで私と盛り上がったじゃんか！

上田 はい

藤沢 このまま学校辞めるつもり？

上田 …

藤沢 私らバカだけど、頑張って何とか高校を卒業しようって約束したよね？

上田 はい…(泣きそうになっている)

藤沢 何で、あんた泣きそうになってんの？

問。

上田 (半泣きで) 藤沢さん…

藤沢 何？

上田 もし僕がそういうことだったとしても、またマンガの話いっしょにしてくれますか？

藤沢 …そういうこと？

上田 どんな過去があっても、仲良くしてくれますか？

藤沢 うそ…ちよっと待って。(怖がっている様子)…ホントってこと？

上田 答えて下さい

平野、何か胸騒ぎを感じて階段を下りていく。

藤沢 (階段の音が聞こえて、逃げるように) あっ、また私来るわ

上田、逃げようとする藤沢の腕をつかむ。

藤沢 …（恐怖を感じて）何、ちょっと離してよ！

上田 答えて下さい！

平野 おい、何してんだ？

その声で上田、藤沢から手を離す。その直後、藤沢、上田から離れて去っていく。
間。

上田、半泣きになりながら急いで階段を上がっていく。平野、追いかける。

平野 あいつ何だって？

上田 …

平野 何て言ってたんだよ？

上田 いや、何か火の用心の当番がどうとかで

平野 おい、本当のこと言えよ

平野、上田の胸ぐらをつかむ。

平野 もうあいつも知ってたんだな！

上田 …はい

平野 何で今になって、そんなことになるんだよ

上田 すいません、やっぱり僕はここに帰ってきたらダメだったんです

長い間。

平野 俺なりに働いて働いて、自分の店持てて頑張ってたよ

上田 僕が店長に会いに来なかったら、良かったんです

平野 何である時、格好つけてお前なんか雇ったんだろ

上田 …

平野 じゃあ元気でなって言って、別れたら良かったよ

上田 すいません

平野 俺、言ったよな？ 昔お前がこの町の工場で俺といっしょに働いてた時、もう誰もお前のことを知らないところへ行けって

上田 はい

平野 何で帰ってきたんだよ

上田 …

平野、感情がたかぶって上田のお尻を蹴る。

平野 何で帰ってきたんだよ！ そのまま全国を点々としてりや良かったじゃないか！

平野、さらに蹴り続ける。

上田 すいません、僕はただ店長に会いたかっただけなんです

平野 …(蹴のきをやめる)

上田 この町を出てから、僕のことを誰も知らないところに行っても、僕はずっと一人でしたから

平野 お前はそれだけのことをしたんだよ

上田 …はい

平野 わかってたら、またどこか知らないところに行ってくれ

上田 …

平野、机の上にあったラストシーンが描いている一枚を見つける。

平野 店がこんな状況になってるって言うのによ…のうのうとマンガなんか描きやがって

平野、ラストシーンを読む。

平野 こんなありきたり…最後はうまくいく夢物語なんか、もう描くなよ！

平野、ラストシーンが描かれた原稿を一気に破る。
一気に暗転。

3場 同じクリスマス夜の夜 19時頃

明転すると、2階に上田と近松と松坂と円山の4人がいる。1階には誰もいない。

上田と近松、黙々と本棚のマンガ本をダンボール箱に詰めている。

松坂と円山、片付けている二人をしばらく見ている。

円山 (手を上げて) はい！

松坂 はい、円山くん

円山 私考えたんやけど、今日の夜はどっか行って3人でオールしよか

松坂 うん、それもアリちゃアリだね

円山 私らはまたいつでも会えるけど

松坂 上田さんとは今度いつ会えるか、わかんねーしな

円山 そうそう、何かこんな気持ちで過こしてもな

松坂 だな

上田 あっ、近松さん、その新しいマンガはこっちにお願いします

近松 分けてたか。ごめんごめん

上田 新しいのは、お好み焼き屋さんにもらってもらいますから

近松 よしっ、ほんだら、このダンボールから先に下に持っていったこか

近松、ダンボール箱を持ち上げる。

上田 すいません

近松、ダンボール箱を持って階段を下りていく。

松坂 やっぱり、理由聞かせて下さいよ

上田 …明日になったら、わかるから

円山 恐っ！ 何か恐っ！

松坂 ホント俺ら、何聞いても大丈夫ですからって

円山 ほんまほんま…そんなん殺人とかやったら、私ナチュラルにひくけど

上田、動きが止まる。

松坂 お前、ナチュラル使いすぎっ！ ってか、お前、殺人って…言っていることと悪いことがあるだろ？ (上田に) ねえ

上田 … (松坂を見ている)

松坂 えっ…

円山 上田さん、顔怖いですって

上田 そうだよ

円山 何？

上田 俺はそういう人に言えないことをしたんだよ

長い間。

上田 だから、もう早く出ていってくれよ

上田、勢いよくドアを開ける。

階段を上がってきた近松を引っぱって部屋に入れて、松阪と円山を強引に追い出す。

松坂と円山、何も言わず階段を下りていく。そして店の外に出る。

円山 ちょっと、どうしよう…私、今めっちゃ手の平汗ばんでるんやけど

松坂 俺も金玉縮み上がってるって

円山 何、それ

松坂 (人差し指を口元に持っていき) しっー

円山 何？

松坂 (小声で) 後ろ

円山、恐怖を感じて立ち止まる。

松坂 誰もいませんでしたー

円山 もうやめてーや！ 追いかけて来たんかなと思ったやん

と言って円山、松阪の背中を叩く。

松坂と円山、去っていく。

近松 何や、腹立つな。あの子ら面白半分に

近松、空いたままになっていた部屋のドアを閉めて鍵をかける。

上田 近松さん

近松 どないしたんよ？ そんな情けない顔して

上田 何か、すいません

近松 アホやな。こんな時こそ私を頼ってくれたらええねん

上田 何かこの前近松さんが言ってたこと、意味がわかった気がします

近松 何のこと？

上田 壊れたラジカセの話

近松 …ああ、あの話な

上田 近松さん、僕の壊れたラジカセを元通りにして下さい

近松 上田くん

上田 直してくれますよね？

近松 …（優しく）よしよし、ラジカセだけやなくて、あんたの壊れたもん全部私が直したる

上田 本当ですか？

近松 うん、もう安心して私らといっしょに大きな船に乗ろな

と言って、近松笑う。

そこに下手から千葉が走ってきて、階段を上がってノックする。

近松 店長さんか？

上田 いえ、違います

上田、鍵をはずしてドアを開ける。

千葉 ごめん！ 随分遅くなっちゃった

上田 先生

千葉 何？

上田 もう何もかも間に合わなくなりました

千葉 …

上田 今日でここを出ていくになりました

千葉 何？ どういうこと？

上田 僕のことを商店街の人に知られてしまったんです

千葉 嘘…

近松、黙々とマンガ本をダンボールに詰め始める。

近松 上田くん、はよせな店長さん戻ってくるで

上田 そうですね

上田も黙々とマンガ本をダンボール箱に詰め始める。千葉、しばらく見ている。

千葉 これから、どうするつもりなの？

上田 これから方舟会館に行って暮らします

近松、笑顔で上田を見る。

千葉 方舟会館？

上田 そこに行つて、過去の罪を許してもらいます

千葉 はあ？

上田 そこに行けば、すべて許してもらえますから
千葉 ちょっと待って

上田 僕にはもうそこしか行くところがないんです

千葉 そこがどついつところかわかつてるの？

近松 どういうところって、希望に満ち溢れてるところやわな？

と言って、近松笑う。

千葉 信じていないところに行くのはやめなさい

上田、かまわずマンガ本をダンボール箱に詰めていく。

千葉 そんな都合いいところなんてこの世にはないから

近松、片付けを止めて。

近松 上田くん、この人もう帰ってもらったら？

千葉 信じていないところに行くのはやめなさい

上田 そこに行けば、すべて許してくれるって言ってくれたんです

千葉 そんなわけないでしょ。それはあなたが一番わかっていることでしょ

上田 ……

千葉 そんな一時の感情に流されたら、ダメだって

上田 ……

近松 ちょっと、上田くん。この人、私が追いついてもええか？

上田 ……

近松 何で黙ってるん？

上田 わからなくなりました。どうしたらいいのか

近松 (怒って) わからんことないやろ！

上田 ……

近松 (急に優しい口調で) いっしょに方舟乗るんやろ？

千葉 それは泥舟だから

近松 泥舟で…ほんだから聞きますけど、おたくはどんな舟にこの子に乗せるつもりですか？

千葉 誰かを乗せる舟なんて、私には持ってません

近松 (笑いながら) ほんだら、どうやってこの子を救うつもりなんですか？

千葉 ……

近松 おたくの舟は一人しか乗れないんですか？

千葉 ……

近松 あらう上田くん、この人黙ってもうたわ。まあ、そういうことやわ。出てってもらわな

近松、千葉の背中を押して部屋から出そうとする。

千葉 松本くん、そんな都合のいい舟なんてどこにもないから

近松 おたくにはわからんやろうけど、この世界は見えるものが全てとちゃうから

千葉 違う！ こんな時は見えないものなんかより見えるものを信じなきゃダメなんだって！

本くんには何か見えてるの？ そんな舟が見えてるなら私は何も言わないけど 松

上田、千葉の顔を見つめている。

近松 上田くん、さっきも言ったけど、あんたは方舟に乗らなあかんなんやで

上田 …

近松 乗らんとあんたはただ流されて溺れていくだけやで

上田 流されたくないです

近松 そうやろ、ほんだらいつしよに方舟に乗るな

上田 …

近松 上田くん

上田 いえ乗れません

近松 えっ？

上田 やっぱり見えないものを信じることはできません

近松 あれ？…（視界から上田が消えたように）あれ？ 上田くん、どこ行ったんや、どこ行ったんやろ

そう言った後、近松、人が変わったように帰り支度を始める。

近松 たった今、上田くんの姿が見えへんようになったわ

上田 近松さん。すいません。今までありがとうとっございしました

近松 あれ？ 声も聞こえんようになったわ…（落胆して）ごめんな、あんたを救えんかったわ

近松、階段を下りて早歩きで店から去っていく。

上田、マンガ本の片付けを再開する。

千葉 ごめんなさい

上田 えっ？

千葉 私がここに来たことで商店街の人に…

上田 いや先生は関係ないです。僕がこの町に帰ってきたからダメなんです

千葉 …

上田 最近よくあの橋に行っていましたから。夕方になると、あの橋からずっと川を眺めていましたから…そんな姿を誰かに見られていたんだと思います

千葉 …

間。

千葉 あっ、最後のページは描けたの？

上田 描けませんでした

千葉 何で？

上田 …

千葉 何でよ、何してんのよ、今日描かないとダメなんですよ

上田 今から描いても、もう今日中には間に合いませんから

千葉 まだ時間あるでしょ？

上田 …でも先生、ラストシーンはまた夢物語なんです

千葉 それでいいじゃない。それを描くのよ。もし今日描かなかったら…やるせない気持ちになる

よ

上田 そうですね、またやるせない気持ちになりますね

そこに疲れ切った平野がどこかから戻ってきて店に入り作業台近くのベンチに腰掛けて、たらずみ始める。

千葉 川を舟で渡る人がいてね、どこかの岸に舟をたどり着きたいんだけど、水の流れが急に止まったのよ

上田 何の話ですか？

千葉 やるせないって言葉の語源。やるせて言うのはね、舟が進める水の流れってことなんだよ

照明変わって、部屋の畳が川のように見える。

千葉、一人乗りの舟に乗っている。必死でオールを漕いで進もうとするが前には進まない。

千葉 ああー何で進まないのよ

そのうち、何度か漕いでいるうちに舟は進みます。しかし、また元の場所に戻ってくる。

千葉 えっ…ここはさっきの場所じゃない？ 何で同じとこグルグル回ってるんだろ

上田、千葉の姿をじっと見ている。

平野、ベンチで疲れ切ってたはずんでいる。

千葉 流れがさっぱりわかんないよ…やるせないなあ

上田 ずっと続くんですか？

千葉 何が？

上田 その川ですって

千葉 わかんない

千葉の舟はグルグル回って、また一周するだけ。

そのうち、舟は上田の前に進んで。

千葉 わかんないけど、私は松本くんがどこかの岸にたどり着けばいいのなあって思ってる

上田 …

問。

上田 先生！ 僕がやるせない川を抜けだしたら、また先生会ってくれますか？

千葉 …うん、その時を待っている

上田 今でも思っています。あの日、何で飯田くんにあれほど腹を立てたんだろうって

千葉 それは

上田 はい、僕が初めて描いたマンガをポロカスにけなされたからですけど

千葉 うん

上田 だからって、先生突き落とすことなんかありませんよね？ 今もし同じような状況があっても、絶対そんなことしないのに

千葉 あの時、あなたは中学生だったから

上田 ……

千葉 でもあなたは飯田くんが川に落ちたからって、死ぬとは思ってなかったんでしょ？

上田 はい、死ぬなんて思ってなかったですけど…あの頃は誰もそんな話信じてくれませんでした

上田、千葉を飯田くんに見立てて、その時の行動を再現しようとする。

上田 でもあの時の気持ちは…やっぱり最後飯田くんの肩を突いた時、死ぬ方がいいのになって思ったよな気がします

上田、千葉の肩を押し。千葉、壁にドーンとぶつかる。

千葉 何で橋の上なんかでケンカしたのよ

上田 ……

千葉 私も何であるの、橋の上でケンカしているあなたたちを見かけたのに…何で止めなかったんだろ。何で最悪のことを想像できなかったんだろ

上田 先生、責任なんて感じないでください。先生は全然関係ないですから

千葉 ああー何かまたグルグル回ってるだけになったね

上田 先生！ やっぱり今日中にラストシーン描きます！

上田、そう言って何かを探している。そしてチラシを見つめ、裏返して机の上に置く。

チラシの裏は白い紙。正座をして最後の1ページを描くために、ペンを持ち描き始めていく。

千葉、その姿をしばらく見ていて静かに部屋を出て階段を下りていく。

平野、千葉に気付く。

平野 先生…あいつの先生でしたよね？

千葉 ……お久しぶりです

平野 来てたんですか？

千葉 ……はい

平野 そうですか

間。

平野 何か変わってましたか？ あいつ

千葉 ……

平野 びっくりしたでしょ？ 頭もあんなだし人相も変わってたでしょ？

千葉 平野さん

平野 はい

千葉 こんなこと私がお願いすることじゃないんですけど

平野 ……

千葉 松本くんは平野さんだけが頼りなんです

平野 ……

千葉 どうかどうかよろしくお願いします

千葉、平野に深くお辞儀をして去っていく。

上田、チラシの裏にマンガを描き続けている。
平野、しばらく何かと葛藤しているが吹っ切ったように立ち上がり、階段を上がっていく。

平野 …(ノックして)俺だ

上田 あっ

平野 何だ？ 鍵閉めてなかったのか

平野、部屋に入りあぐらをかく。

上田、平野の前に正座する。

平野 色々考えたけど

上田 はい

平野 俺―やっぱりこの店続けていくことにする

上田 …

平野 ああ店はたまない。お前も出ていかなくていい

上田 …

平野 お前、今から商店街に行つて、「僕は昔、同級生を突き落とした松本です」って言つてこい

上田 そんなことしたら

平野 バカ、別に言つたところで俺もお前も捕まるわけじゃない。昔のことだ。ただ、客の信用は

しばらくの間、落とすし働いてくれる奴が来てもそつとわかれば離れるかも知れんね―けどよ―

上田 そんなことできません

平野 できるから…(笑おうとして)死ぬ気で生きてりやどつにかなるだろ

上田 店長…嬉しいです

平野 なら、そつしよう

上田 待つて下さい

平野 何だよ？

上田 僕は色んな町で自分の過去を口にした時から色んな人たちが離れていくのを見てきたので、

わかるんです。そんな…そんなことはないって

平野 …

上田 もう店長には迷惑はかけられません。僕は明日、この町から出ていきます

平野 そんなことしたつて、どうせまた何年か経つて俺に会いに来るんだろ。そしたら、また商店

街の連中にバレルんだよ。もうそんな繰り返しはいいから

上田 店長、僕はもう二度と帰つてきません

長い間。

平野 よしっ！ じゃあ戻つてこれないよつに

平野、立ち上がつて上田の胸ぐらをつかみ立たせる。

平野 古川橋に連れていってやる

上田 …

平野 あの橋からお前を突き落としてやるから

上田 …

平野 それでいいだろ？ ここを出て行くつて言つのなら

上田 … (平野の言葉を理解する)
平野 何とか言えよ
上田 わかりました

平野、上田を投げ飛ばす。

平野 お前、川で溺れて死ぬことを選んでるのかよ！

上田 はい

平野 はあ？

上田 店長に会いに来た今年の春もそういう気持ちでいましたから

平野 …

上田 僕はあの時、店長に会った後、古川橋から落ちて死ぬつもりだったんです

平野 …

上田 もう生きていても辛かったですから

長い間。

平野、机の上を見る。

立ち上がって、チラシの裏に描いているマンガを読む。

平野 おい、このマンガまだ途中じゃないか

上田 はい、描けませんでした

平野 描けよ

上田 えっ

平野 また最後はうまくいく話を描けよ。夢物語を描けよ

上田 …

平野 それを描き終えて、その一枚をこのダンボールにしまってからだ

上田 …

平野 橋に行くのは

上田 …はい

上田、再びラストシーンを描き始める。

音楽が入ってー

平野、上田がマンガを描いている姿をじっと見ている。

徐々に照明暗くなる。

上田、一心不乱にラストシーンを描いている。

平野、そんな上田をただ見つめている。

そして暗転していくー

終わり